

2019 年 度 新 規 A 級 審 判 員 強 化 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 CHALLENGE CUP 2019		
●日程	平成31年3月25日	(月) ~	平成31年3月27日 (水)
●会場	アリーナ立川立飛		
●講師	阿部哲也氏、上田篤拓氏、橋本恵一氏、漆間大吾氏、加藤誉樹氏		
●スケジュール	平成31年3月27日 (水)		
	09:00 会場到着(前日に東京入り) 12:30 実技 14:00-16:00 ミーティング(IR: 上田篤拓氏) 16:30 解散		
●担当試合	平成31年3月27日 (水) 14:00 ~		
	対戦カード	東京Z	VS FE名古屋
	主審	CC: 菊池氏(新潟)	U1: 清瀬 U2: 伊藤氏(岩手)
	講師／主任	上田 篤拓 氏	
	講評	・プレイにアジャスト、コネクトするための「1歩のこだわり」を持つこと。 ・2人同時にcallした際、エリアとアングルを持っているレフリーがレポート。 ・まずは「エリア」、そこに「アングル」が加わる。エリアを無視してアングルを取りに行くことはできない。 ・判断して意見を持っていることが大事。起きた事に意見や判断を持っていないとコーチともコミュニケーションすら取れない。 ・トレイル時、3vs2の判定は出来るだけ下にずれて判定。(ローセンターもしくはダブルセンターはよくある)。 ・callしたとき、どちらのファウルか難しいケース(リバウンド、ルーズボールなど)の時にディレクション。明らかなものに関してはディレクションは不要。 ・ショットクロックの訂正の際、TOへ分かり易く、はっきり、簡潔に伝える。 ・セカンドオピニオンはコーリングオフィシャルが起こすもの、ヘルプやアシストはノーコーリングオフィシャルが起こすもの。 ・まずはクルーをリスペクトした上で、ヘルプが出来る強いCCMを持ったレフリーが求められている。 ・センターサイドへボールが運ばれた際、そのプレーは絶対無視できないので、一番大事なのは「センター」。トレイルが手放す(check outする)為には、受け取る(check inする)センターがいないと手放せない。センターは、首や体の向き、もしくはセンターとして1歩2歩アジャストすることでトレイルに意思表示をする。このことをPGCや必要な場合はゲーム中に修正をしていくことが大事。 ・マジックタイムの意識、もっと習慣づける。EOQの時だけでなく、常に把握。 ・start→develop→finishまで見る。テンポセッティングの笛はstartで切ってもいいが、その代わり効果があるか、結果があることが大事。 ・同時に2人がファウルをした場合、基本的にどちらのファウルの方が周りから見てインパクトがあるかを考える(RIQ)。 ・リードでピークをした時に、一瞬だけでもトレイルとアイコンタクトが取れるとより安心感につながる。 ・コートの外に出てしまう癖を出来るだけなくすようにする。 ・ルーズボールファウル、リバウンドファウルを判定するときの考え方の一つのヒントとして(絶対ではない)、ボールに対してどちらが先にリーガルに触れるかどうか。 ・コミュニケーションは、まずは相手を否定しないことから始まる。ただ、自分たちの判定も否定しないやり取りの仕方を身につける。 ・自分が見ているアングルと、捕まえているものは何なのかを把握しておく。そして、それをいつ手放すのか(受け取るパートナーがいることを前提)という感覚が大事。	

自己の感想	ゲームの展開として、スピードもそこまで早くなく、比較的クリーンにプレイをしてくれたので、よりメカニックのことやゲーム管理(ショットクロックなど)細かい点を落ち着いて再確認しながらレフリーが出来ました。また、プレゼンテーションを一番の課題としているので、立ち振る舞いや見せ方、声を有効に使うことを意識し、強いCCMを発揮できるよう臨みました。 映像で見ると、意識はしていてもやはりまだしっかりステイしてcallが出来ていない場面がまだあるので、もっと意識すること、そして自身で感じている以上にレポートへの動き出しが早かったのでより注意してトライしたいです。また、今回は声をたくさん使ってみたが、上田氏のアドバイスにもあったように、伝える内容やタイミング、言葉の使い方はもっと工夫が必要であると感じ、今後の課題の一つになりました。マージナルのcallがまだまだある事と、もう1テンポ遅らせてからの方がよりマッチする笛があるので、そこも意識して改善できるよう身に付けていきたいです。 IR上田氏のミーティングでは、疑問に思うこともクルーですぐに質問し解決することが出来たので、大変貴重な時間でした。 今回、新規A級研修会ということもあり、同じ立場の方ばかりで話がし易い雰囲気と、全員がS級一次審査目前という状況の中での研修会は、非常に良い緊張感とモチベーションで参加出来ました。今回のこのような機会を用意してくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。
--------------	--